

1 題材名 いろで いろいろ

2 題材について

本題材は、学習指導要領「A 表現」における「(1) ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくる」ことや、「イ 感覚や気持ちを生かしながらのしくつくる」ことを基礎・基本として考えた、子どもが体全体の感覚を使って活動する造形遊びである。子どもが自分や友達の作品を見合うことで、「B 鑑賞」における「(1) イ 感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付く」こともねらいとしたい。

子どもたちの身のまわりには、様々な形や色があふれているが、形や色に対するイメージや思いは、子ども一人一人の経験によって大きく違う。本学級の子どもたちが入学してほぼ半年が過ぎ、学校生活にもだいぶ慣れ、いろいろな活動で絵を描くことを楽しんでいる。子どもが描く絵を見てみると、いつも同じキャラクターばかり描く子どもや、お姫様や動物など、「何かの形を描くことだけが絵を描くこと」だと考えている子どもが多いと感じた。そこで、自分で彩色した紙粘土を画材として使い、自由な表現をさせることで、形や色についてのイメージを広げられるのではないかと考えた。

本題材は、造形遊びとして素材のおもしろさや表現する喜びを経験することで、子どもが形や色への興味を深めながら、創造性や想像力を高められる活動であると考えている。

まず、子どもの手のひらに乗る量の紙粘土と絵の具を混ぜて、こねたり伸ばしたりして、紙粘土の柔らかく伸びる感触を十分に味あわせたい。少量ずつ絵の具を混ぜることで、色の変化を楽しんだり、偶然にできた色の美しさや混色のおもしろさに気付いたりすることができるのではないだろうか。今回は、色が濁らないように2色程度の混色を基本としたい。また、つくった色に名前をつけるなど、言語感覚を養う場も活動の中に取り入れたい。1人で5色の紙粘土をつくり、それぞれに合った色の名前を考えさせたい。

次に、彩色した5色の紙粘土を使って色画用紙に絵を描き、感覚を働かせながら、形や色の美しさ・おもしろさを生かした表現ができるようにしたい。「にゆるんと伸ばす」「ぺたぺたつける」「ずりっとこすりつける」と教師が声に出しながらいくつかの技法を全体に例示し、子どもが自分でも遊びながらいろいろな技法に気付けるようにしたい。

水彩絵の具や液体粘土ではなく、色をつけた紙粘土を画材として扱うことで、手触りの面白さと混色のおもしろさを同時に味わえると考えた。紙粘土は作業していて周囲があまり汚れないため、子どもにとって処理しやすく、水量の調整や筆などの用具を使う必要がない分、失敗を恐れずに活動することができるのではないだろうか。

自分や友達の作品のよさを認め合う場を設けて、自分の作品への自信を深めたり、新たな発想を生むきっかけにしたりして、意欲的に活動できるようにしたい。また、子どもが身のまわりで見つけた色を紹介する「みつけたよ すてきないろ」コーナーを掲示したり、自分で名前をつけた色の絵本をつくらしたりするなど、子どもに形や色に対する感覚を磨く経験を多く積みさせておきたい。

子どもが自分の感覚や気持ちを生かし楽しみながら表現することが、色彩や言語の感性を磨いたり、自分の思いを表すために必要な技能を身に付けたりすることへとつながっていくと期待したい。

素材	用具
紙粘土、色画用紙、前時作った色付きの紙粘土 3個、あらかじめ作っておいた色付きの紙粘土(教師用)	絵の具(5色:赤、青、黄、自分で選んだ色2色)、 紙皿、粘土板、トレイ、紙粘土保存用小袋、汚れてもいいタオル、霧吹き

3 子どもの実態 (男子17名 女子14名)

① 図画工作の学習は好きですか。

とても好き23名 好き5名 (理由:絵を描くのが好き、絵の具でいろいろな色を作れる 等)
きらい2名 とてもきらい 1名 (理由:絵を描くのが下手、準備が面倒 等)

② 図画工作は得意ですか。

とても得意22名 得意6名 (理由:絵を描くのが得意、粘土が得意 等)
苦手3名 とても苦手0名 (理由:絵を描くのが苦手、粘土が苦手 等)

③ 図画工作の学習で何を使うのが楽しいですか。

絵の具21名 クレヨン20名 粘土19名 はさみ17名 のり14名

④ 絵の具を混ぜて色を作ることは好きですか。

とても好き25名 好き5名 (理由:おもしろい、楽しい、きれいな色ができる 等)
きらい0名 とてもきらい1名 (理由:手が汚れる)

⑤ 絵の具を混ぜて色を作るのは得意ですか。

とても得意17名 得意8名 (理由:きれいな色ができる、友達にすごいと言われた 等)
苦手4名 とても苦手2名 (理由:思った通りの色が作れない、変な色になる 等)

⑥ 混ぜると、どんな色ができるでしょう。

赤 + 青 = 紫 (正回答21名 誤回答4名 無回答6名)

赤 + 黄 = オレンジ (正回答15名 誤回答5名 無回答11名)

黄 + 青 = 緑 (正回答11名 誤回答6名 無回答14名)

⑦ 図画工作の学習でもっと上手になりたいことはありますか。

絵の具できれいな色を作る、はさみを上手に使う、クレヨンで絵を描く、粘土で作る 等

⑧ 図画工作の学習でこれからやってみたいことはありますか。

絵の具できれいな色を作る、クレヨンできれいな色を作る、紙粘土で何か作る、友達と一緒に何か作る 段ボールで何か作る、建物の絵を描く 空き箱を使って工作する 等

【考察】

子どもの多くが、図画工作が好きで、得意だと感じている。中でも、絵の具やクレヨンを扱うこと、混色することは楽しいと感じている。ただ、色の名前や混色についての知識はあまりなく、混色の仕方や絵の具や水の量の加減が分からずに思い通りの色がつくれなかったり、濁った色ができたりした体験から、混色を苦手と感じている子どももいる。

「くじらぐもにのって」の絵画題材に取り組んだ際は、夕方や夜の空の色にしようとして、色を何色も混ぜすぎてしまったり、絵筆の洗浄が不十分だったりして、空の彩色が濁った色になってしまった子どもがいた。教師の個別の声掛けやポイントのおさえ方が不十分で、混ぜる色の数の指定や、水の量の調整の仕方をもっと具体的に提示する必要があった。

絵の具の混色をもっと上手になりたい、もっとやってみたいという思いをもった子どもが多数いる。そこで、色の感覚を磨くため、筆を使った水彩絵の具でなく、指先を使って楽しみながら表現できる紙粘土を画材として、思う存分体験させたい。

4 題材の目標

○紙粘土の感触や色の美しさを楽しむ。(関心・意欲・態度)

○紙粘土の感触の心地よさや色の美しさから想像を広げ、表したいことを考える。(発想・構想)

○できた色を使って感覚を働かせながら、紙の上に工夫して表現することができる。

(創造的な技能)

○自分や友達の作品の形や色、表し方のおもしろさに気付き、よさを認め合うことができる。

(鑑賞の能力)

5 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
紙粘土の感触や色の美しさを楽しもうとする。	紙粘土の感触の心地よさや色の美しさから、想像を広げ、したいことを考えている。	できた色を見ながら、自分なりの表し方を工夫している。	自分や友達の作品の形や色などから、おもしろさに気付き、楽しさを感じている。

6 指導計画 (3時間扱い)

時	子どもの活動	時	教師の指導・支援 (○) と評価 (◆)
1	○紙粘土に絵の具を混ぜて、できた色に名前をつける (3色)。	1	○濁った色にならないよう、混ぜる絵の具は2色までにすることや、濡れタオルでよく手を拭くことをおさえる。 ○5色の絵の具をのせた紙皿を各自用意し、使う絵の具の量が多くなりすぎないようにする。 ◆紙粘土の感触や色の美しさを楽しもうとする。(関心・意欲・態度)
2	○紙粘土に絵の具を混ぜて、できた色に名前をつける (2色)。 ○前回つくった色付きの紙粘土も合わせて、全部で5色の紙粘土を使って、遊びながら色画用紙につける。 ○途中の作品を見せ合い、自分や友達の工夫について話し合う。(本時2/3)	0.5 0.5	○紙粘土を色画用紙につける技法をいくつか紹介し、子どもがいろいろなつけ方を考えられるようにする。 ○台紙にする色画用紙の色や、色付きの紙粘土の色を選べるようにし、色の組み合わせや重なり的美しさに気づかせる。 ◆紙粘土の感触の心地よさや色の美しさから、想像を広げ、したいことを考えている。(発想・構想) ◆できた色を見ながら、自分なりの表し方を工夫している。(創造的な技能)
3	○カラフル粘土を色画用紙に貼り、仕上げる。 ○自分や友達の作品を見て、よさや違いを感じ取り、話し合う。	0.5 0.5	○つまようじやストローなどの用具を準備し、子どもが工夫できるようにする。 ○授業中のつぶやきや作品へのこだわりを把握しておき、指名する。 ◆自分や友達の作品の色や形などから、おもしろさに気付き、楽しさを感じている。(鑑賞の能力)

7 本時の学習

(1) 目標

○絵の具を混ぜた紙粘土の感触や色の変化を楽しむ。(関心・意欲・態度)

○紙粘土の性質や色の美しさを生かした表現を考える。(発想・構想)

○できた色の組み合わせや紙粘土のこすり方・つけ方を工夫して表現することができる。

(創造的な技能)

○自分や友達の商品を見て、形や色のおもしろさやよさを感じることができる。

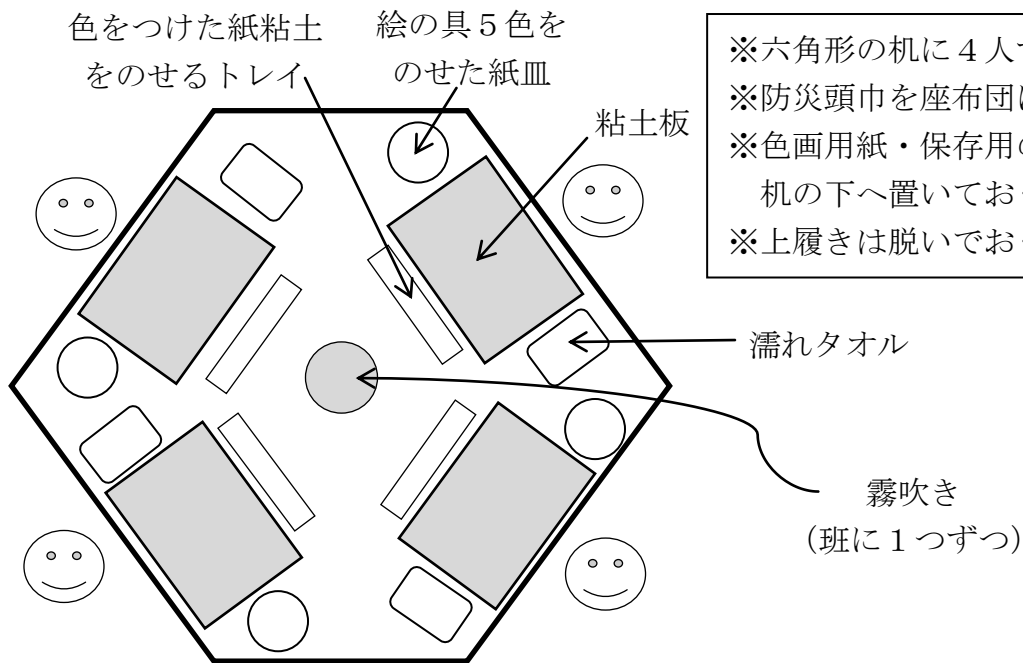
(鑑賞の能力)

(2) 展開 (2 / 3)

学習内容と活動	教師の指導・支援 (○) 評価 (◆)	資料・道具
<p>1 前時につくった色付きの紙粘土を見せ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は夕焼け色をつくったよ。 ・ぼくのは、うきうき色です。 <p>2 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> いろで ふしぎな せかいをつくってみよう。 </div>	<p>○紙粘土の色の美しさや色の名前に触れ、本時でやってみたいことを考えさせる。</p>	<p>前時に色をつけた紙粘土 (3個) 色の名前の一覧表</p>
<p>3 紙粘土に色をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土は、おもちゃみたいに伸びるね。 ・しましまの模様ができたよ。 ・原っぱの色ができたよ。 	<p>○濁った色にならないよう、混ぜる絵の具は2色までにすることや、濡れタオルでよく手を拭いて、色が混ざらないようにすることをおさえる。</p> <p>◆絵の具を混ぜた紙粘土の感触や色の変化を楽しんでいるか。(関・意・態)</p>	<p>粘土板 紙粘土 (2個) 絵の具 (5色) 紙皿 タオル トレイ</p>
<p>4 色画用紙に紙粘土で絵を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引っ張ると細い糸になったよ。クモの巣みたいにしてみよう。 ・細かくちぎってたくさん貼ると、花火みたいな模様ができたよ。 ・大きさが、ばらばらの三角形を並べてみよう。 ・いろいろな色が重なってきれいだな。 ・親指と小指だと紙粘土のくっつき方が違うよ。 ・爪を使うとおもしろいつけ方ができるよ。 ・紙粘土の上に違う色の紙粘土を重ねてもおもしろいよ。 	<p>○色付きの紙粘土をトレイの上に全て並べ、紙粘土の色に合う色画用紙を選ばせ、色の組み合わせを考えられるようにする。</p> <p>○教師が擬音を声に出しながら紙粘土のつけ方をいくつか紹介し、子どもが自分でもいろいろな技法を発見できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にゅるんと伸ばすと…。 ・ぺたぺたつけると…。 ・ずりっとこすりつけると…。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div> <p>○丸めて立体的な形をつくるのではなく、紙粘土を少しずつちぎって使うことを</p>	<p>色画用紙 水の入った霧吹き</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・水をかけると生き返った！ ・前よりもっと伸びるようになったよ。ふしぎだなあ。 ・伸ばしてつけて、伸ばしてつけて…と繰り返して紙につけたよ。 ・全部自分の好きな色だから、どの色と色を組み合わせても、お似合いだね。 ・伸ばしていたらドラゴンみたいになったよ。 5 自分や友達の作品のよさや工夫を見つけ、気付いたことを話し合う。 6 次時の確認をする。 	<p>助言し、色の組み合わせを楽しみながら活動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水の入った霧吹きを班に1つずつ用意し、紙粘土の伸びが悪いときは、水を吹きかけて紙粘土を柔らかくしてから使うように助言する。 ○好きな色を使いながら、形にとらわれず、自由に紙につけていくよう助言する。(共) ○一人ひとりのよい所を見つけ、声をかけながら励ましたり、紹介したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ここはどうやって紙につけたの。 ・きれいな色の組み合わせだね。 ・すごい！○○みたいだね。 ◆紙粘土の性質や色の美しさを生かした表現を考えることができたか。(発・構) ◆できた色の組み合わせや紙粘土のこすり方・つけ方を工夫して表現することができたか。(技) ○鑑賞の場を設け、自分や友達の作品のよさやおもしろさに気付かせる。 ◆自分や友達の作品を見て、形や色のおもしろさやよさを感じることができているか。(鑑) ○作品を仕上げることを伝え、次時に意欲をもたせる。 	
--	--	--

◎子どもの机にあるもの



◎掲示物など

- ・「みつけたよ すてきないろ」コーナー
子どもが身の回りから見つけた色を紹介するカードを掲示する。
- ・子どもがつくった色の名前一覧表
子どもが前時につくった色の名前を一覧表にしておく。
- ・いろでいろいろ絵本
子どもがクレヨンを使ってつくった色を絵本にまとめておく。
- ・色の見本表
教師がでつくった色の見本表を準備する。
- ・教師用の彩色した紙粘土
色画用紙に紙粘土を貼り付ける際、教師から子どもに渡す紙粘土を用意しておく。(黒、赤、青、緑、白など)

◎板書計画

いろでいろいろ

いろで いろいろ あそんでみよう。

☆あそび・その1

いろを いろいろ つくろう！

やくそく

- ・すこしずつ まぜる
- ・まぜるのは 2しよくまで
- ・あんこみたいに つつんで

ながいはり〇まで

☆あそび・その2

いろで ふしぎな せかいをつくろう！

にゆるん	ぺた ぺた	ずりっ

ながいはり〇まで